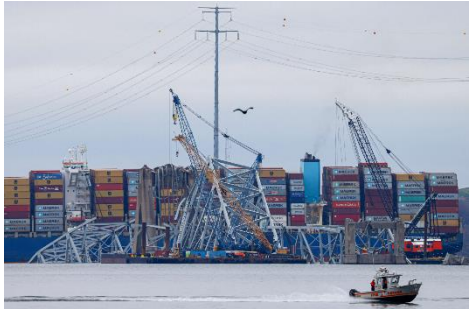
TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

【続報①】アメリカ・ボルティモアの橋崩落による物流の影響

TOKIO MARINE GROUP
To Be a Good Company
東京海上日動火災保険株式会社
（2024 年 4 月 3 日）

各種ニュース報道の通り、3 月 26 日午前 1 時 30 分（日本時間同日午後 2 時 30 分）頃、アメリカ東部メリーランド州ボルティモアのパタプスコ川河口の橋に大型の貨物船が衝突し、橋が崩落する事故が起こりました。本号では、2024 年 3 月 27 日号でお伝えした情報の続報をお伝えします。

1. ボルティモア港の様子（現地時間　4月2日時点）



サルベージ作業の様子/写真：ロイター/アフロ

既報の通り、大型の貨物船がメリーランド州ボルティモアのフランシス・スコット・キー橋（通称キーブリッジ）の橋脚に衝突し、全長約 2.6 キロメートルの橋の大部分がパタプスコ川に崩落した事故の影響で、作業船以外のボルティモア港への入港は留められております。

現地では沿岸警備隊、陸軍工兵隊、メリーランド州環境局など複数の組織からなる統合司令部（Unified Command）が設立され、事故の対応に当たっています。当局によると、ボルティモア港に閉じ込められていた一部の小型船舶を脱出させるため、橋の北側に1本目となる暫定の水路を設けました。現地時間 4 月 2 日には橋の南側に 2 本目の暫定水路が開通し、3 本目が完成すれば小型船舶は港に自由に出入りできる見込みです。

しかしながら大型貨物船の航行には、全ての瓦礫を除去する必要があるとみられています。現在も水中の残骸の調査と撤去作業は並行して続いておりますが、大量の瓦礫で濁った水の中に変形した橋の鋼材が沈んでいるため作業は難航しています。当局は見通しを明確にしていませんが、撤去作業は少なく見積もっても 1 か月程度続くとみられています。

2. 同港を利用する船舶への影響

当社米国現地法人経由入手した情報によると、現地時間 4 月 1 日時点で、ボルティモア港湾内で立ち往生している船舶は 7 隻、ボルティモア港で貨物を積載予定であった船舶はボルティモアまたはノーフォークの湾外に停泊しています。同港に向かっていた 4 隻についてはフィラデルフィア・ニューヨーク・ノーフォーク等に振替えられました。

船会社各社もボルティモア港への輸送予約を留めており、事故前にボルティモア港に搬入されていた輸出予定貨物についてはキャンセルとして貨物の引取りを求めております。既に輸入した貨物は通常通り引取り可能ですが、ボルティモア港向け貨物の到着港変更については、確定次第連絡予定とのことです。

なお、貨物鉄道会社の CSX トランスポーテーション社も、ニューヨーク・ニュージャージーにて荷揚げされる貨物の増加を見越し、ボルティモア・ニューヨーク間の路線便を新規で開始していますが、一定期間、貨物の滞留は避けられない見込みです。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

◆◇◆

【出典】キーブリッジレスポンス 2024　https://www.keybridgeresponse2024.com/

米国沿岸警備隊　https://homeport.uscg.mil/port-directory/maryland-ncr

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

マリントピックスバックナンバー